

# 注意!

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。  
■文中で旧URL(<http://www.nougyou.kitakami.iwate.jp/agri/>)を記載している場合、新URL(<http://i-agri.net>)に読み替えてください。

平成19年1月発行

## 病害虫防除技術情報 NO.18-2

岩手県病害虫防除所

### 黄化・落葉症状を呈するダイズ病害の発生とその特徴

県内のダイズで発生が認められた葉の黄化、早期落葉する症状を調査したところ、褐紋病(糸状菌)、葉焼病(細菌病)、斑点細菌病(細菌病)の3病害が確認された。

#### 1 発生状況

平成17年、18年の8月下旬から9月にかけて、ダイズの葉が黄～褐色の斑点を生じ後に早期落葉する症状が各地で発生し、褐紋病、葉焼病、斑点細菌病であることを確認した(表1)。

表1 ダイズ葉の黄化・褐変症状と菌の分離状況 (平成18年、30地点調査)

症状*1	病名(病原菌)*2	検出地点数(検出率)	発生確認地域(品種等)
葉に赤褐色病斑形成、葉の黄化、褐変枯死 ・早期落葉	<b>褐紋病</b> ( <i>Septoria glycines</i> : 糸状菌)	6 (20.0%)	花巻市、北上市、奥州市 (黒千石、リュウホウ)
葉に黄～褐色病斑形成 病斑に発疹形成 ・早期落葉	<b>葉焼病</b> ( <i>Xanthomonas campestris</i> pv. <i>glycines</i> : 細菌)	3 (10.0%)	北上市、盛岡市、軽米町 (ナンプシロメ、スズカリ)
葉に黄～黒褐色病斑形成 病斑は水浸状、菌泥が乾燥すると鱗片状 ・早期落葉	<b>斑点細菌病</b> ( <i>Pseudomonas syringae</i> pv. <i>glycinea</i> : 細菌)	1 (3.3%)	奥州市 (スズカリ、近接圃場の「秘伝」は未発生)

\*1 品種や時期により症状が異なる場合がある。写真1～3参照。

\*2 岩手県農業研究センター病害虫部病理昆虫研究室協力

#### 2 生態と発生条件

- (1) いずれの病害も被害残さ上で越冬し翌年の感染源になるほか種子伝染もする。
- (2) 葉の傷口や害虫の食害痕から感染するため、高温多湿や台風通過後に多発しやすい。
- (3) 排水不良や過繁茂条件は発生を助長する。

#### 3 診断

- (1) 品種や時期により病徴が異なる場合があり、外観からの診断は難しいが、検鏡により病斑部から菌泥流出が認められれば細菌病である。

#### 4 防除対策(共通事項)

- (1) 発病圃場から採種しない。
- (2) 連作を避け、排水を良くして株間湿度を下げる。
- (3) 細菌病対象の登録農薬(銅剤等)は発生前からの予防的な散布でないと効果が低い。

写真1 褐紋病



赤褐色病斑（黒千石：花巻市）  
（平成18年9月14日）

葉の黄化（リュウホウ：奥州市）  
（平成18年9月22日）

写真2 葉焼病



盛岡市玉山  
（平成18年9月27日）

北上市成田  
（平成18年9月20日）

初期病斑（宮城県）

写真3 斑点細菌病



奥州市（スズカリ）  
（平成18年9月26日）

（上：表、下：裏）

病斑（宮城県）

事業名：病害虫発生予察事業（病害虫の診断）